

『望まれる』 作：ポチ子

今日も失敗をした。

要領も、効率も悪くて、

毎日同じようなことで怒られる。

そうしていると、

だんだん失敗することを望まれるようになって。

今日もあいつはやかすだろう、

早く失敗してくれないか、

そしたら、心の底から嘲笑ってやる。

後ろからそんな視線を感じる。

私は、見えないもしないその視線に怯えるのだ。

横を通るあの人が、

私を見ていた。

何か、間違ったことをしてるんだろうか。

これが終わった後、怒られるんじゃないか。

手に汗が滲んだ。

失敗するって分かっているから、

誰も、

なにも言ってくれないのだ。

ただ観察して、

失敗する瞬間を待ちわびている。

獲物を狙う肉食動物みたいだ。

隠れられる物陰があれば、

少しは安心なのかもしれないけれど、

あるのは机と椅子くらいで、

どこにも行けやしない。

だから、ただ下を向いて、

椅子に座る。